※内容一部抜粋

○　廃ビル付近・とある夜

ユウとトマ、夜道を歩いて廃ビル付近へやってくる。

ＳＥ：足音（ＦＩ）

ユウとトマ、立ち止まり物陰に隠れながら廃ビルにいる警察の様子を窺う。
トマ、素の状態。

トマ　「あの廃ビル？」

ユウ　「そう。で、その隣にある建物が、依頼してきた組織のアジト。
警察に突き止められちゃったから、これ以上仲間呼ばれる前に片付けてくれって」

トマ　「あーほんとだ。いるね」

ユウ　「……裏口に二人と、建物周辺を見回ってるのが三人……かな？」

トマ　「あ、一人だけ中に入ってった」

ユウ　「よし、じゃあ俺は、まず裏口にいる二人をやるよ」

トマ　「じゃあ俺は中に入っていった一人からで」

ユウ　「おっけー。終わったら裏口に集合。見回りの二人はその後かな」

トマ　「了解。それじゃ……」

ユウとトマ、それぞれナイフと銃を構える。
トマ、クールなスイッチが入る。

トマ　「始めるか」

トマのセリフを最後にシーンチェンジ。

③　廃ビル裏口・とある夜

ユウ、裏口の真上にある窓から飛び降り、刑事1と刑事2にナイフで斬りかかる。
刑事1と刑事2、呻きながらその場に倒れる。

ユウ　「……はい、いっちょあがり」

ユウ、ナイフの刃が欠けたことに気づく。

ユウ　「(気づき)あッ……。
あ～あ～……前から刃の調子が悪いとは思ってたけど……とうとう欠けちゃったかぁ～……これもうダメだな」

廃ビルの中から、トマと刑事3の銃声が聞こえてくる。

ユウ　「お～、トマもやってるな～」

突然窓ガラスが割れ、警察3が叫びながら落ちてくる。

ユウ　「うわっ、びっ……くりした……俺のとこに落ちてこなくてよかった」

刑事4と刑事5の足音が聞こえてくる。

ユウ　「(足音に気づく)」

刑事4と刑事5、廃ビルの曲がり角から現れる。

刑事4　「いたぞ！」

ユウ　「あ、やば……気づかれた」

刑事4　「そこを動くな！」

刑事4と刑事5、ユウへ銃を向ける。

刑事5　「両手を上げて、その場に膝を付け！」

ユウ　「ナイフも欠けちゃったし、トマと合流してからが良かったんだけど……ま、しょうがないよなっ！」

ＳＥ：走る足音

ユウ、刑事4と刑事5に向かって走り出し、刑事4を壁へ蹴り飛ばす。
刑事4、壁に叩きつけられ呻き声を上げる。

ユウ　「そこで大人しくしてな！」

刑事5　「ッ！　貴様ァ！」

ユウ、刑事5の銃を弾き飛ばす。

ユウ　「どうせやるなら、お互い素手でやろうぜ……！」

ユウと刑事5、素手で戦闘。
刑事4、呻きながらもなんとか起き上がり、ユウへ銃口を向ける。

刑事4　「くッ……！　このッ……！」

SE：銃を向ける

ユウ　「(気づき)……ッ！　ヤバッ……！」

SE：銃声

トマ、裏口へ降り刑事4へ向かって発砲。
刑事4、トマに撃たれ、呻きながらその場に倒れる。

トマ　「はぁ……はぁ……！　ッ！　ユウ！」

ユウ　「ナイストマ！」

ユウ、刑事5を欠けたナイフで無理矢理刺す。
刑事5、刺されて呻きながら倒れる。

ユウ　「はぁー……！　刃が欠けててもなんとかなった……！」

ＳＥ：走る足音（ＦＩ）

トマ、素の状態でユウの元へ駆け寄ってくる。

トマ　「危なかったね、ごめん遅くなって」

ユウ　「いや、助かった。ありがとうトマ」

トマ　「ならよかった……あ、そうだ、社長に連絡しなきゃ」

トマ、社長へ任務完了の通話をかける。

トマ　「――あ、もしもし、社長？　お疲れさまで～す。
……はい、終わりました。
……はい、俺もユウもどっちも無事です」

ユウ　「社長～新しいナイフくださ～い」

トマ　「じゃあ俺は休みが欲しいで～す」